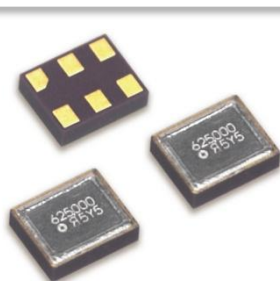




2026年3月期第2四半期  
決算説明会資料  
リバーエレクトック株式会社



2025年12月11日  
(東証スタンダード 証券コード **6666**)

## Agenda

①

# 2026年3月期 第2四半期 決算概要

執行役員総務本部長 天野 伸幸

## 業績

### 売上高

**2,861** 百万円  
(前年同期比 **4.3%**増)

### 営業利益

**△169** 百万円  
(前年同期は△45百万円)

### 経常利益

**△180** 百万円  
(前年同期は△44百万円)

### 親会社株主に帰属する 中間純利益

**△175** 百万円  
(前年同期は△41百万円)

## 事業概況

### 👉 売上高は前年同期比で**4.3%**増

- ・スマートフォン向けが米国の関税政策等の影響を受け大幅減収も、産業機器、車載及び医療ヘルスケア向けは好調に推移し、前年同期と比べ4.3%の増収。
- ・スマートフォン向けの受注減少により、主力の小型音叉型水晶振動子が大幅減収するも、車載向けATカット型水晶振動子が大幅増収。

### 👉 営業利益は大幅減益(△124百万円)

- ・前年同期比で増収も、プロダクトミックスの変化や固定費の増加等により営業利益は大幅減。
- ・特別損益に海外子会社の清算に伴う固定資産売却益200百万円、同子会社の有償減資に伴う為替換算調整勘定取崩損129百万円を計上。

対前年同期比で増収減益

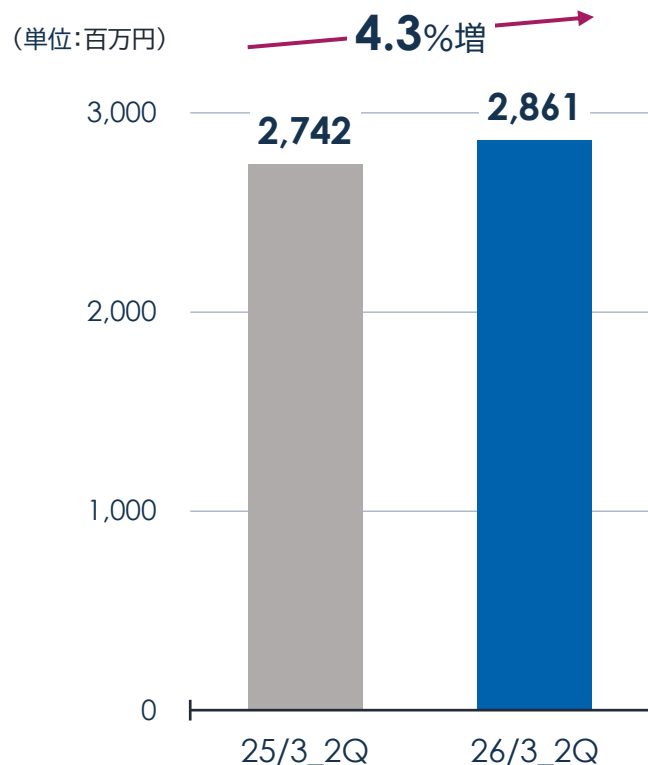
・対前年同期比増収も、プロダクトミックスの変化や車載向けの新規生産ラインの生産力向上の取り組みが道半ばであったことなどにより  
収益力が低下

(単位:百万円)	対前年同期比			直前四半期比		
	25/3期_2Q (前年同期/累計)	26/3期_2Q (当期/累計)	増減金額・率 (前年同期比)	26/3期_1Q (直前四半期/会計)	26/3期_2Q (当四半期/会計)	増減金額・率 (直前四半期比)
売上高	2,742	2,861	+119 +4.3%	1,504	1,356	△147 △9.8%
営業利益	△45	△169	△124 －%	△52	△117	△65 －%
営業利益率	△1.7%	△5.9%	△4.3pt	△3.5%	△8.7%	△5.2pt
経常利益	△44	△180	△136 －%	△63	△116	△53 －%
親会社株主に帰属する 中間(四半期)純利益	△41	△175	△133 －%	△123	△51	+72 －%
EPS	△5.06円	△21.31円	△16.25円	△15.06円	△6.25円	+8.81円
為替レート(USD/JPY)	161.07円	144.81円		149.52円	144.81円	

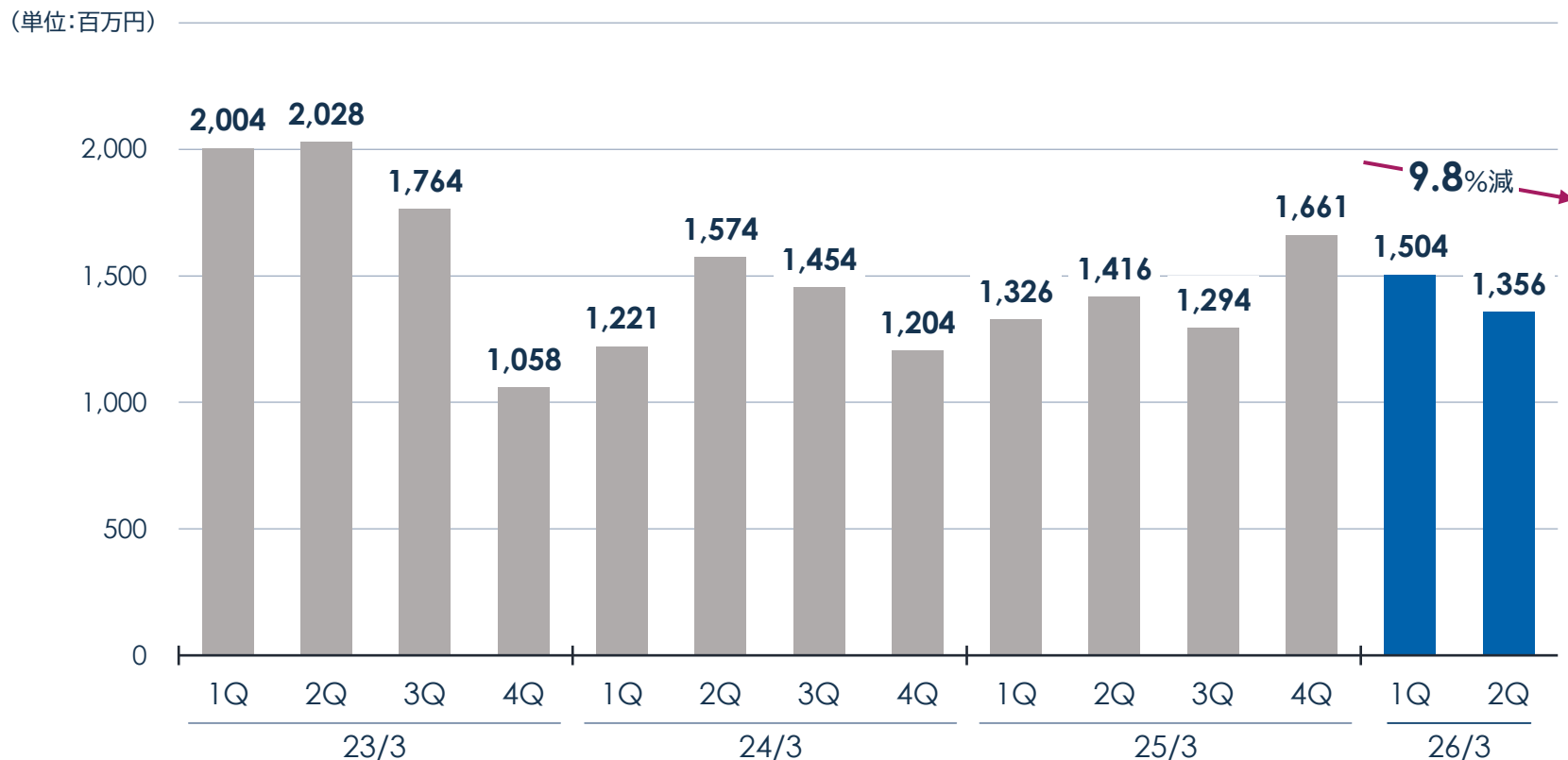
## 車載、産業機器、医療ヘルスケア向けが好調に推移し、対前年同期比4.3%増

・第2Q(会計期間)は米国の関税政策の影響等を受け、対前四半期比9.8%減

累計



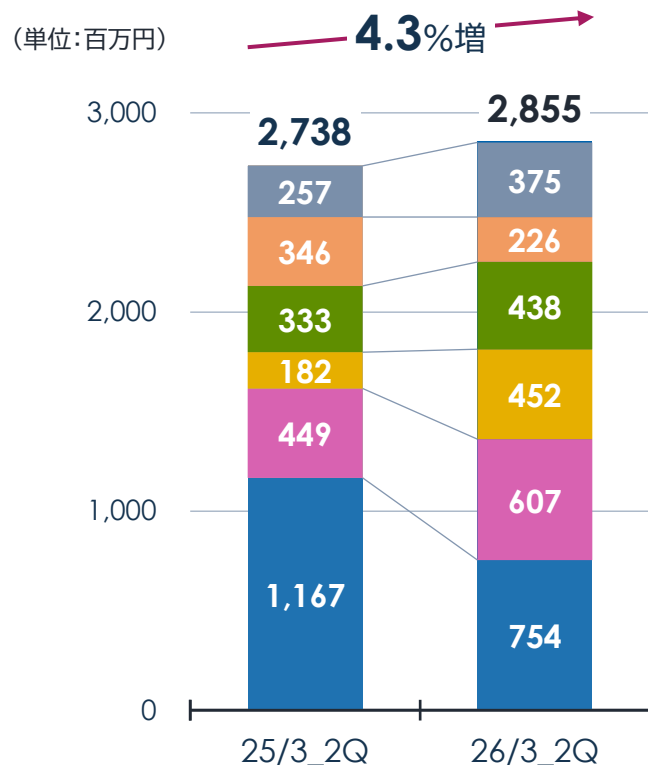
四半期



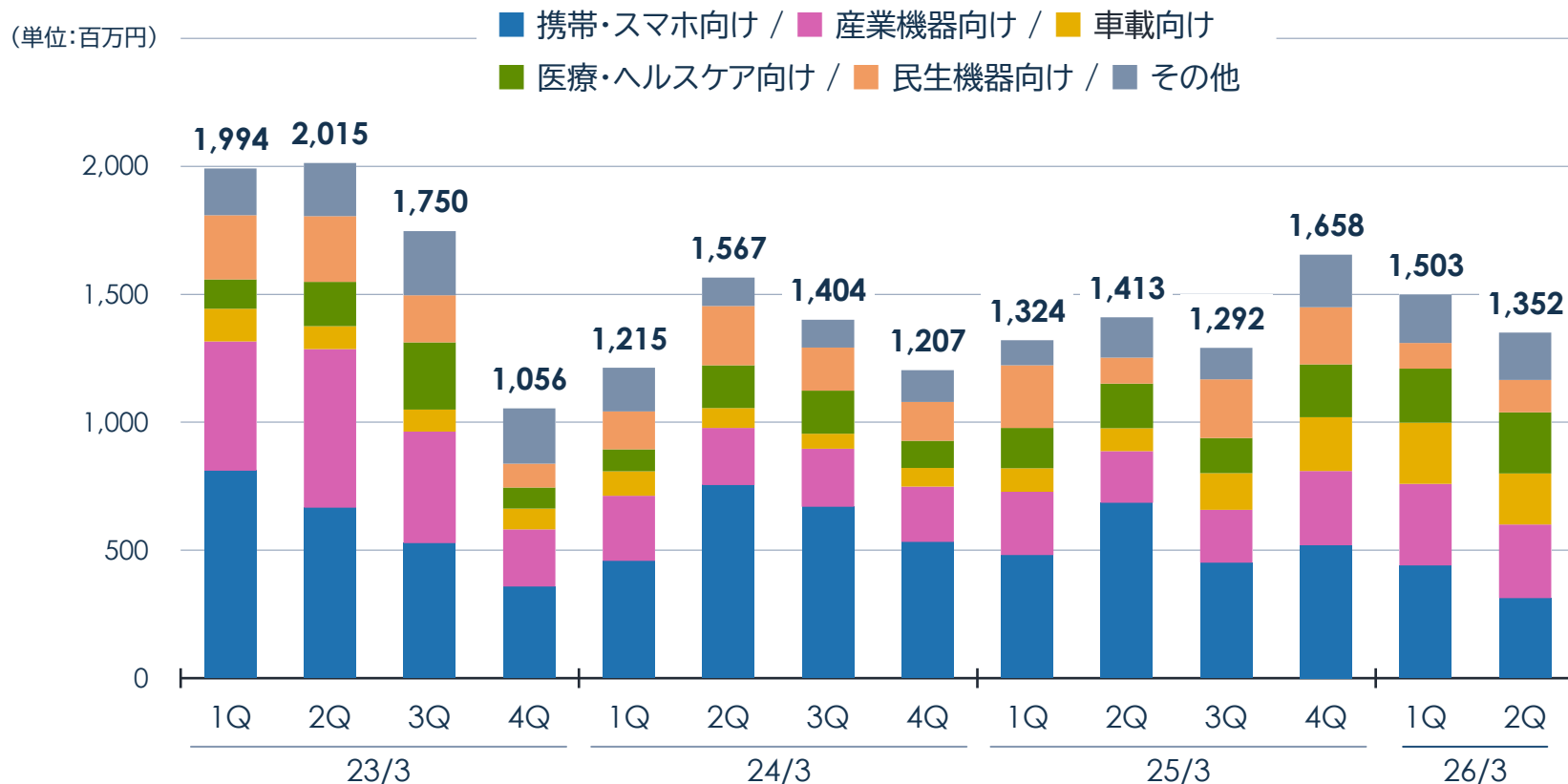
## アプリケーション別の売上構成が大きく変化

・注力市場である車載、医療ヘルスケア向けは拡販活動を強化、他方、スマートフォン向けは米国の関税政策等の影響を受け大幅減収。

累計



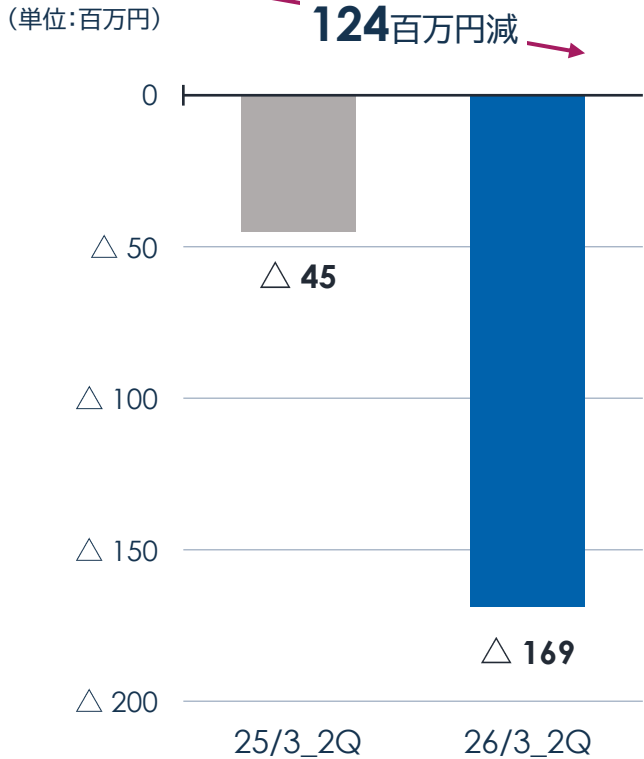
四半期



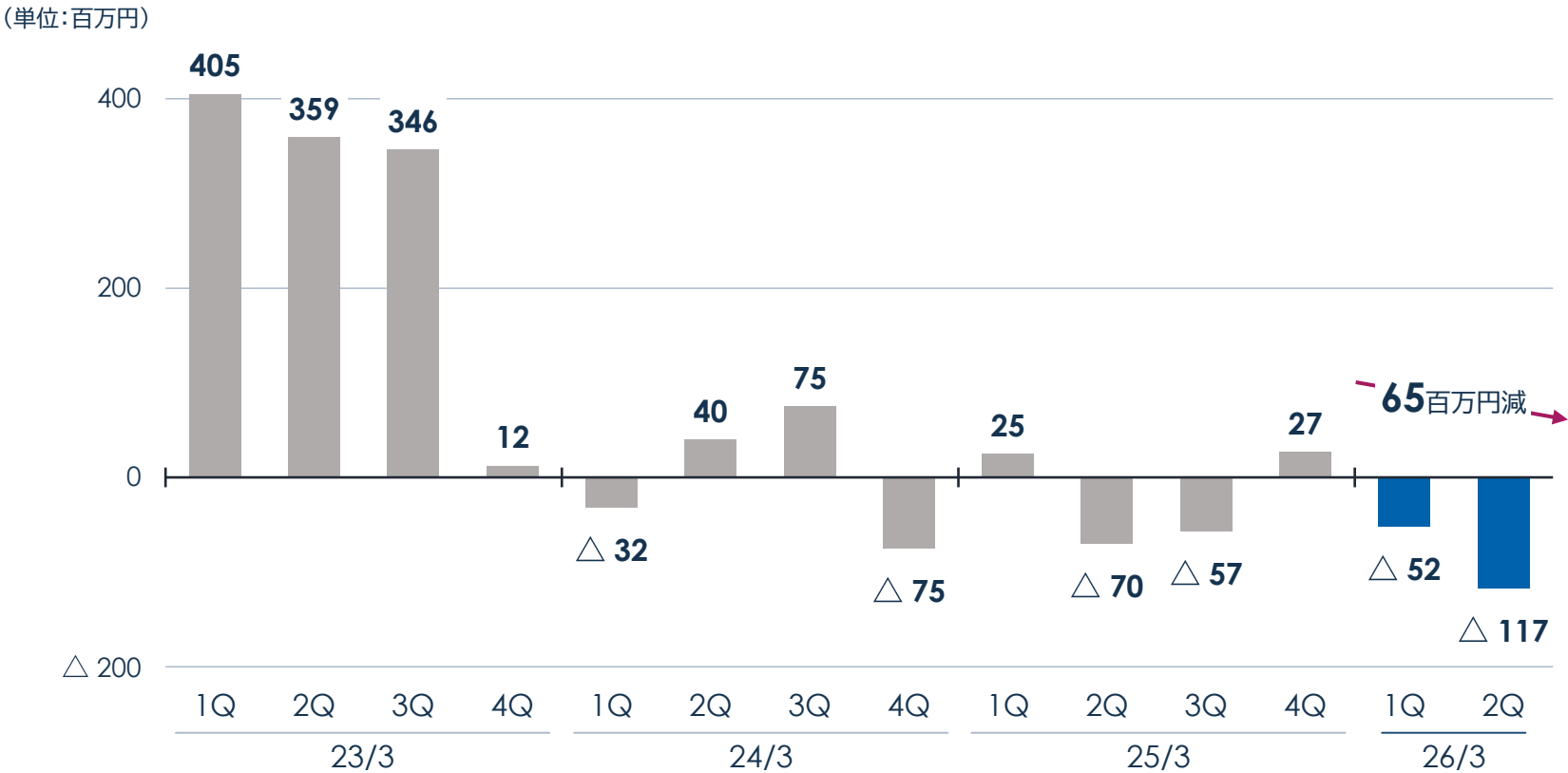
# プロダクトミックスの変化による収益性の低下により、前年同期比124百万円減の営業損失

・注力市場である車載向けは増収も新規生産ラインの生産効率の向上が課題。

累計

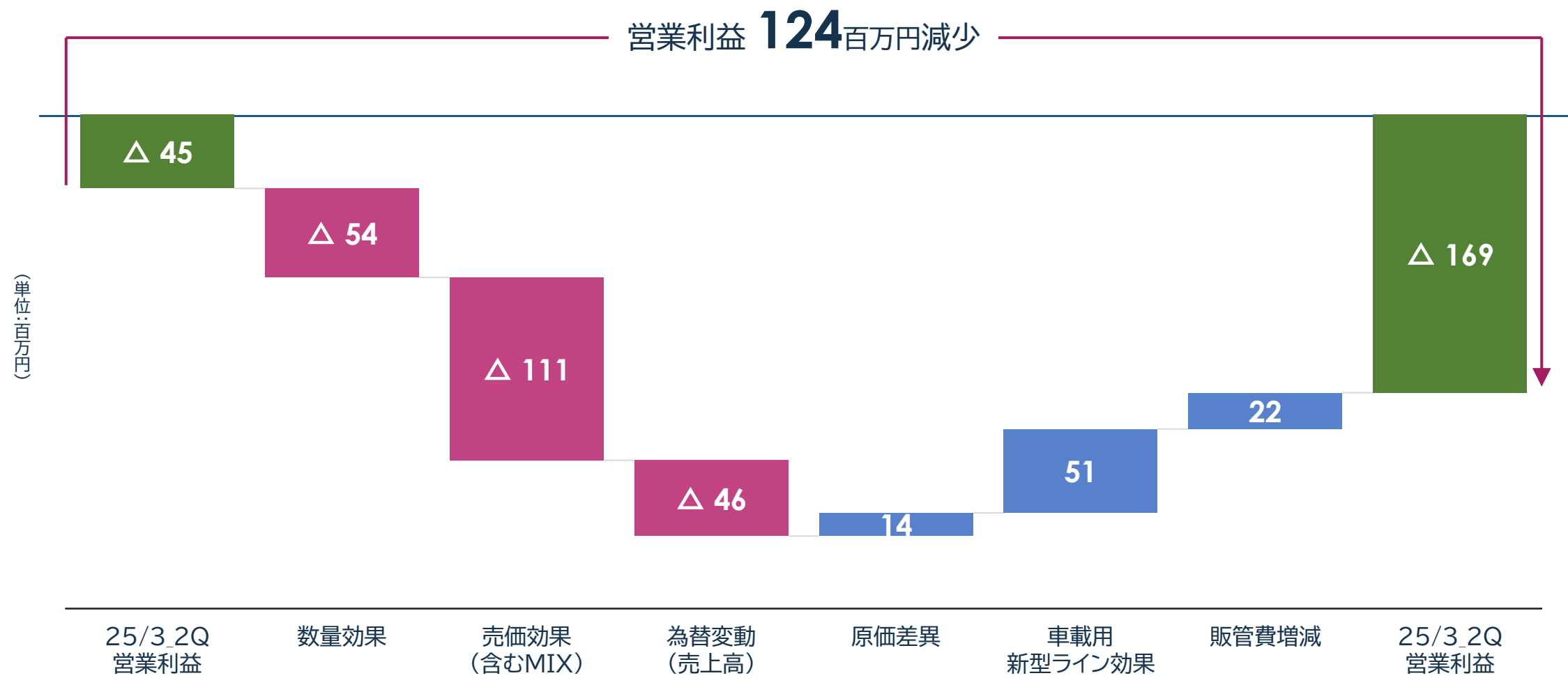


四半期



# 主力製品である小型音叉型水晶振動子の受注減少が大きく響く

・車載向け新規生産ラインの生産効率の向上が課題。

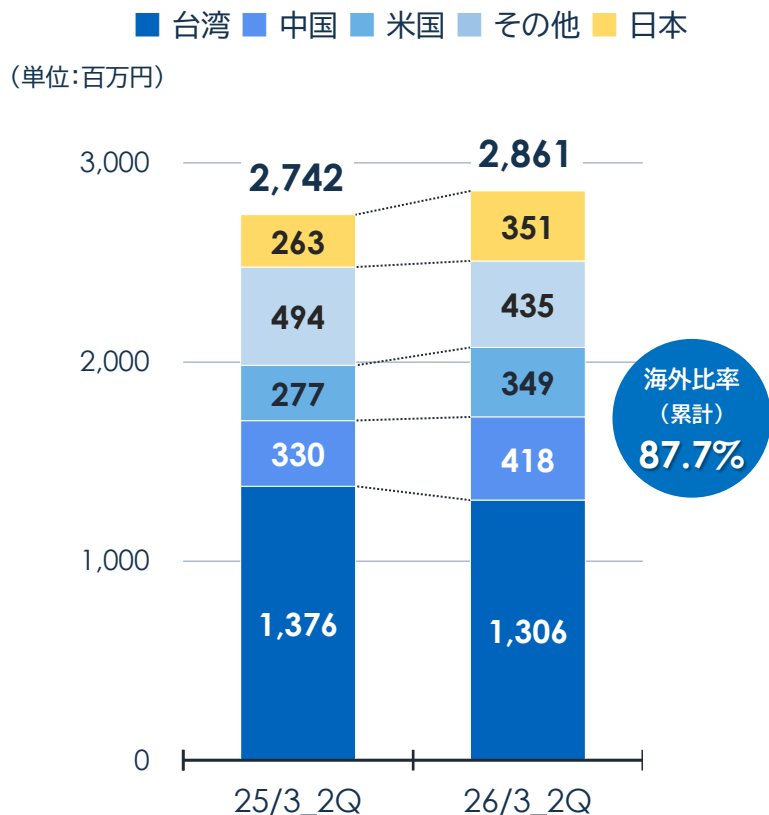




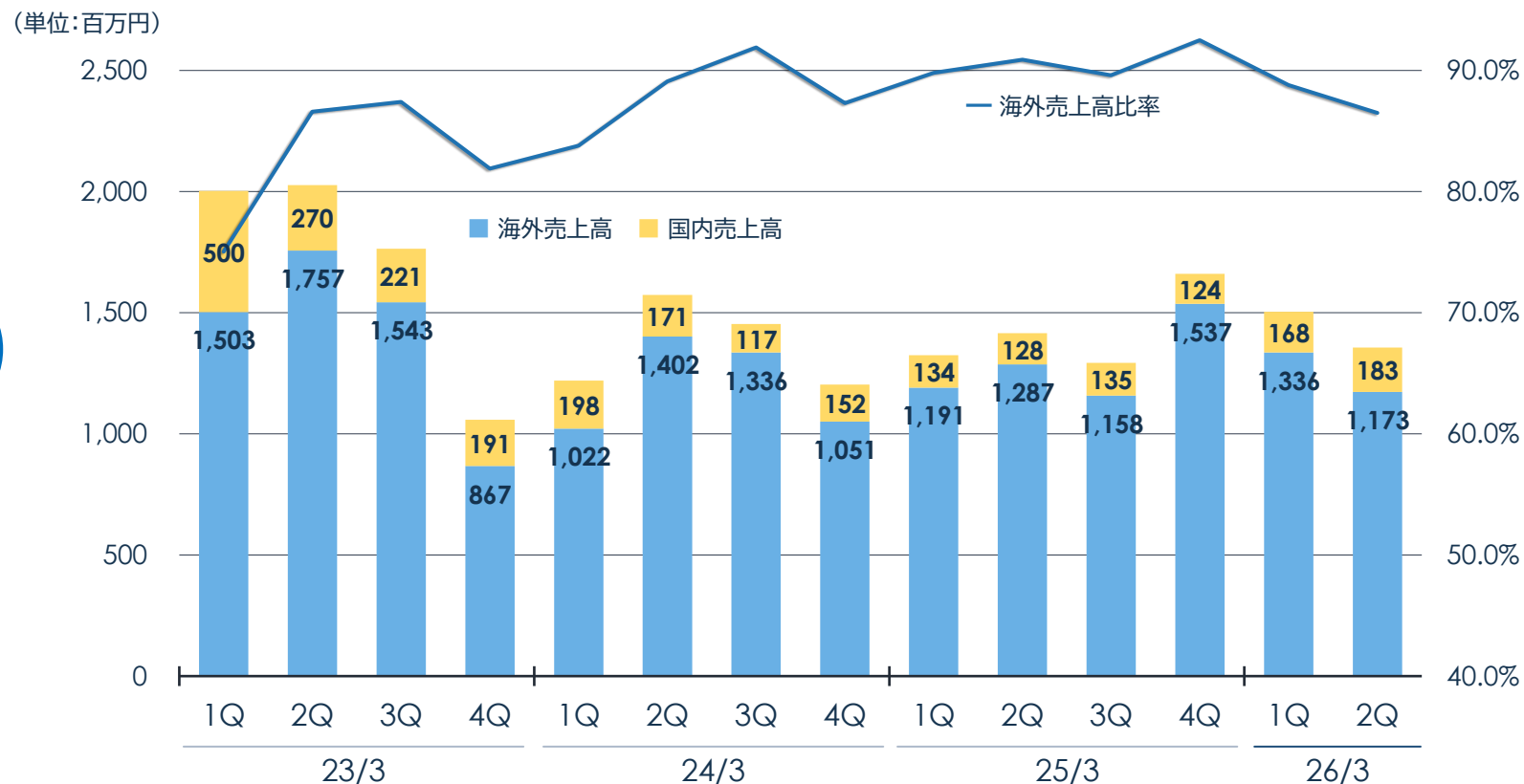
# 海外売上高は、前期比31百万円(1.3%)の増収、海外比率は87.7%

👉 スマートフォン向けの受注減により台湾向けが減収、国内は無線モジュール向けの音叉型水晶振動子が好調に推移。

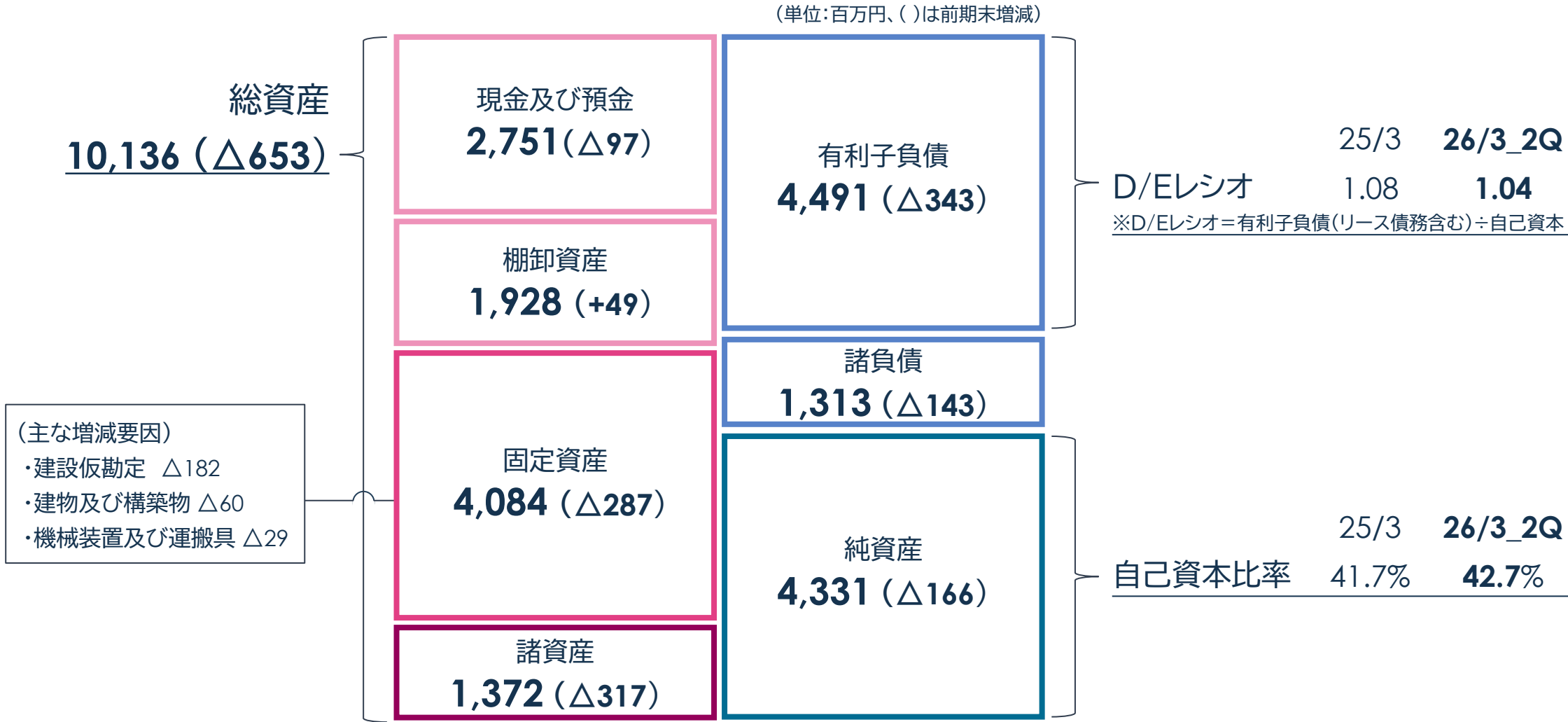
累計



四半期

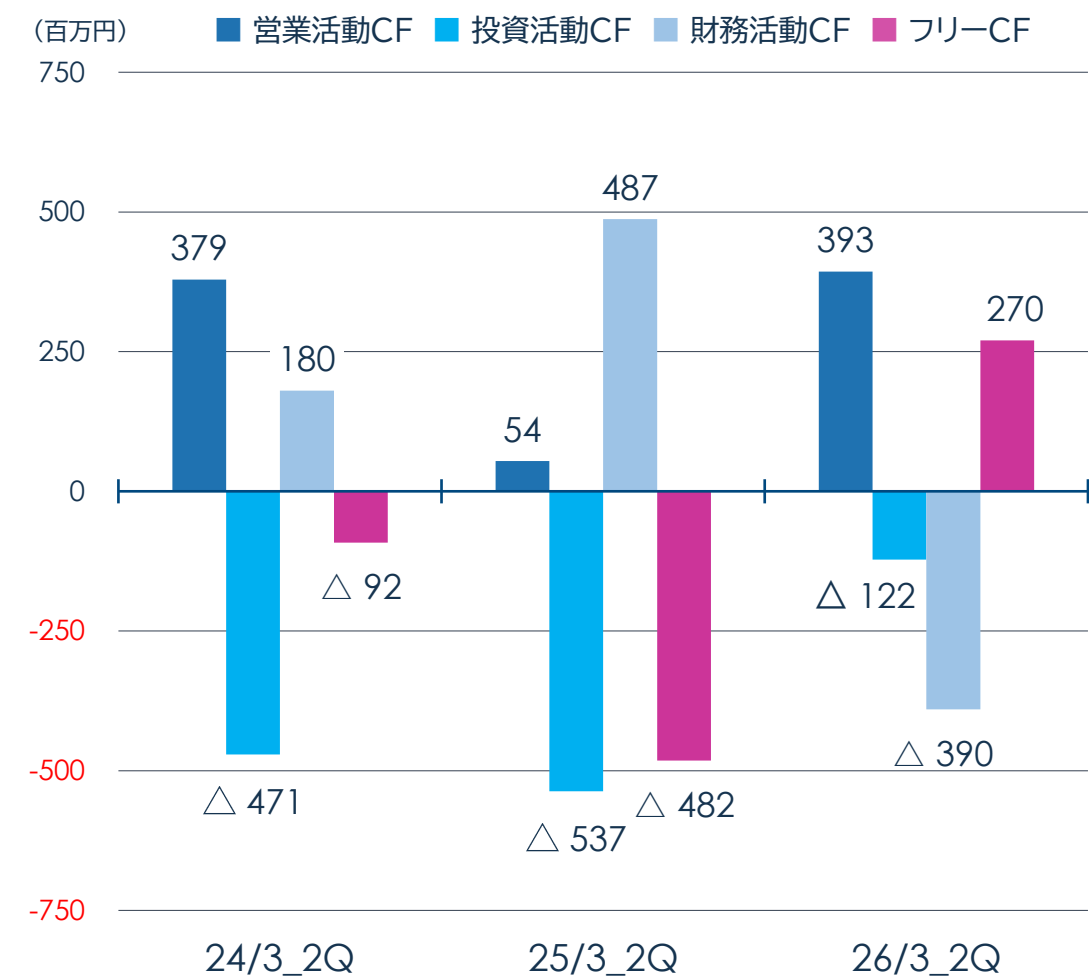


現預金残高は2,571百万円、自己資本比率は前期比1.0pt改善



# 営業キャッシュフローは対前年同期比338百万円の増加

減価償却費、売上債権の減少による増加や、有形固定資産の売却による収入などによりフリー・キャッシュ・フローは270百万円の収入。



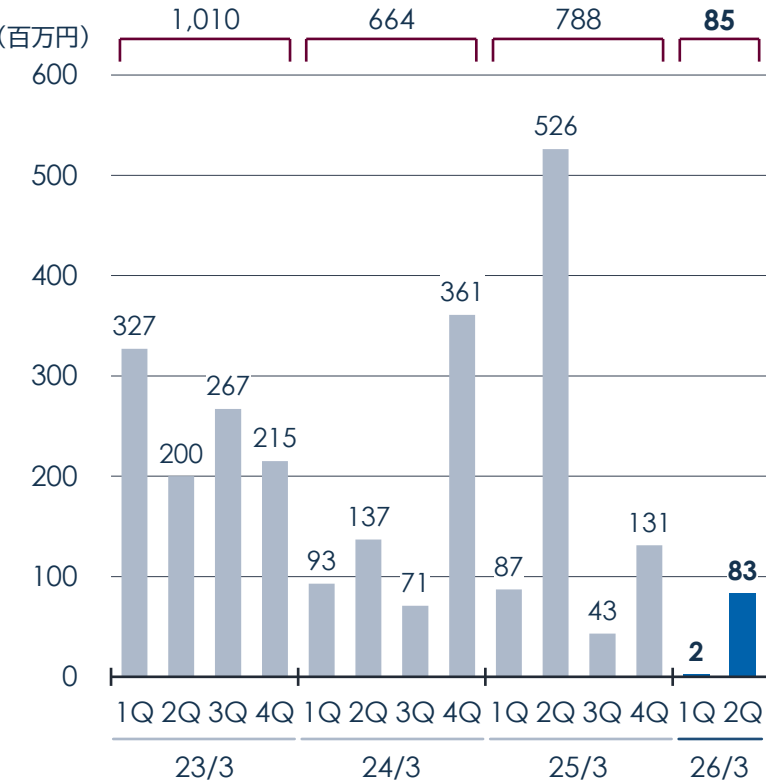
(単位:百万円)	25/3 期_2Q	26/3 期_2Q	対前期末 増減
営業活動によるCF	54	393	+338
投資活動によるCF	△537	△122	+414
財務活動によるCF	487	△390	△878
現金及び同等物による換算差額	156	△99	△256
現金及び同等物残高	2,173	1,974	△198
フリー・キャッシュ・フロー	△482	270	+753
税金等調整前純利益	△44	△109	△65
減価償却費	287	303	+15
有形固定資産の取得	△507	△246	+260

設備投資は前期比マイナスとなる見込み

👉 前期に行った車載向け生産ライン投資の反動。／ 高周波水晶デバイス向け投資は増加。

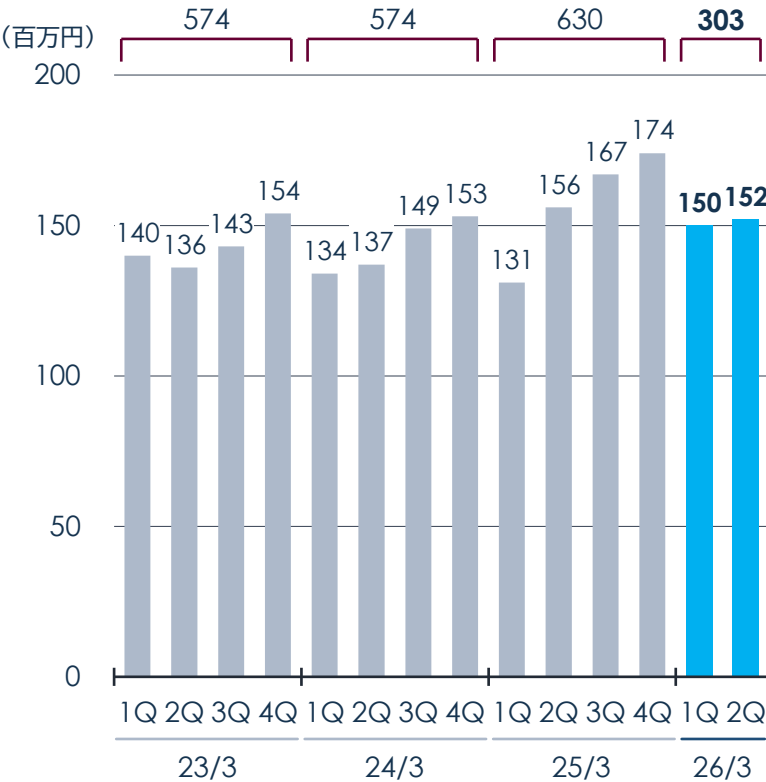
設備投資

25/3期_2Q	26/3期_2Q	増減額	増減率
614	85	△528	△86.0%



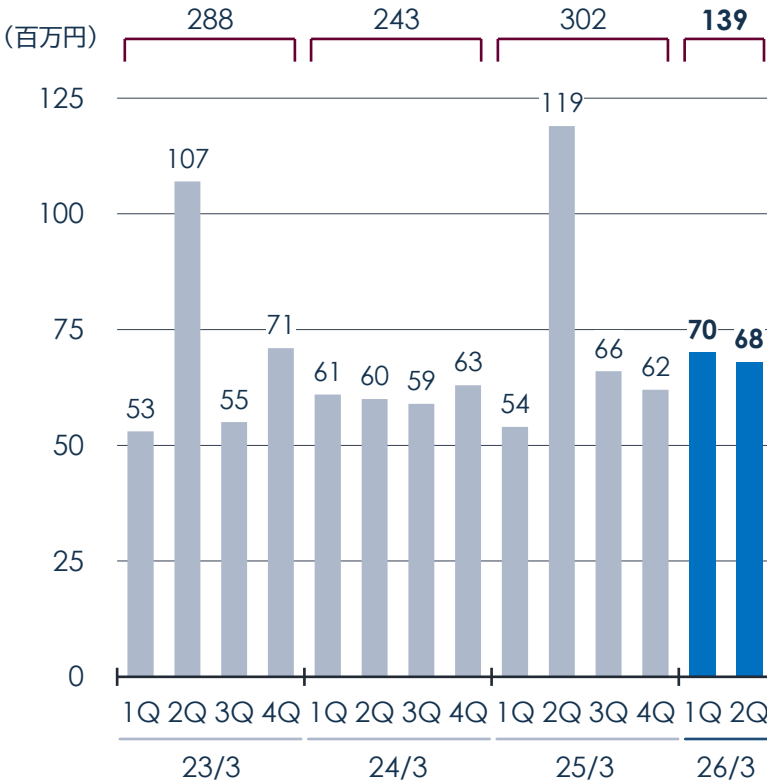
減価償却費

25/3期_2Q	26/3期_2Q	増減額	増減率
287	303	+15	+5.3%



研究開発費

25/3期_2Q	26/3期_2Q	増減額	増減率
173	139	△34	△19.8%



Agenda

②

## 2026年3月期 通期業績見通し

代表取締役社長 萩原 義久

## 第2Q実績及び最近の業績動向を踏まえ、業績予想を修正

☞ 売上高は第2Q実績と同水準、利益面は車載向け新規生産ラインの安定化もあり、改善方向。

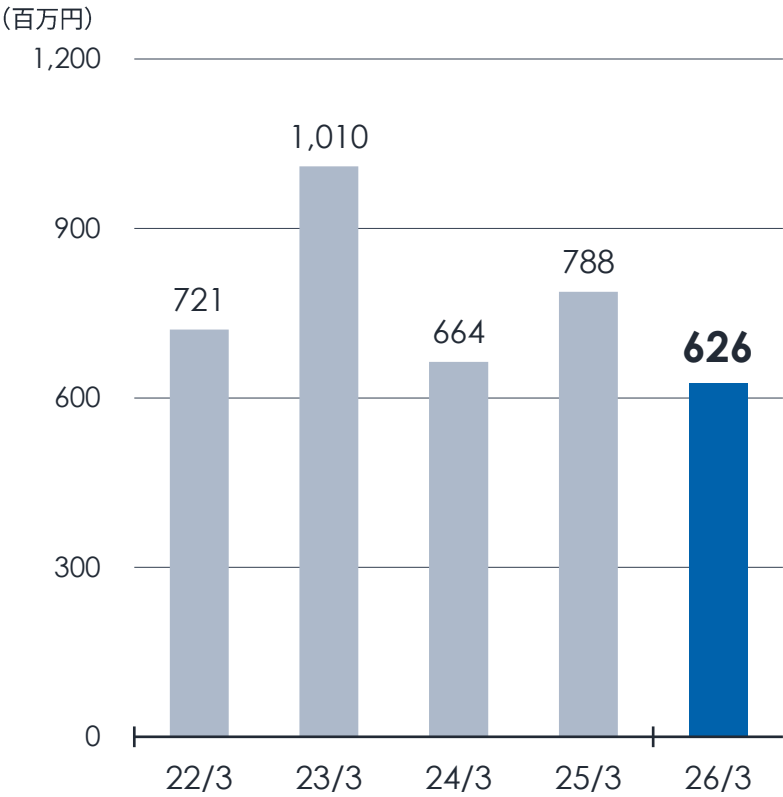
(単位:百万円)	25/3期 (通期実績)	26/3期 (期初通期予想)	26/3期 (修正通期予想)	対期初計画 増減金額 / 増減率
売上高	5,698	6,070	5,740	△329 △5.4%
営業利益	△75	148	△224	△372 －%
経常利益	△60	109	△235	△344 －%
親会社株主に帰属する 当期純利益	△79	279	△266	△546 －%
EPS	△9.66円	33.99円	△32.42円	△22.76円
為替レート(USD/JPY)	158.18円	152.00円	145.00円	7.00円高

# 設備投資は前期の反動により減少

👉 研究開発は高周波水晶デバイス向けを主に前期比微増。

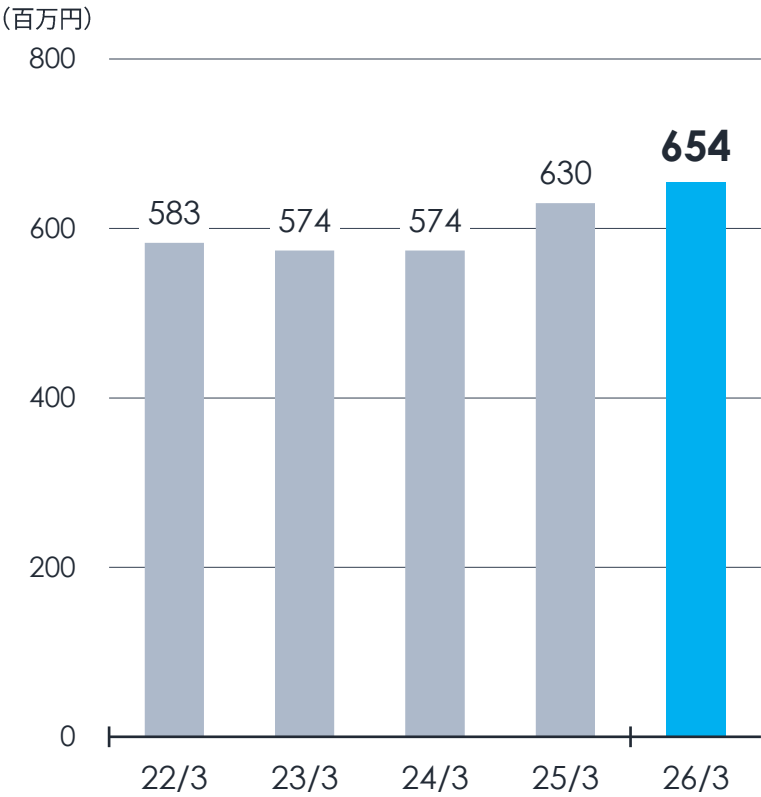
設備投資

25/3 期	26/3 期	増減額	増減率
788	<b>626</b>	△162	△20.6%



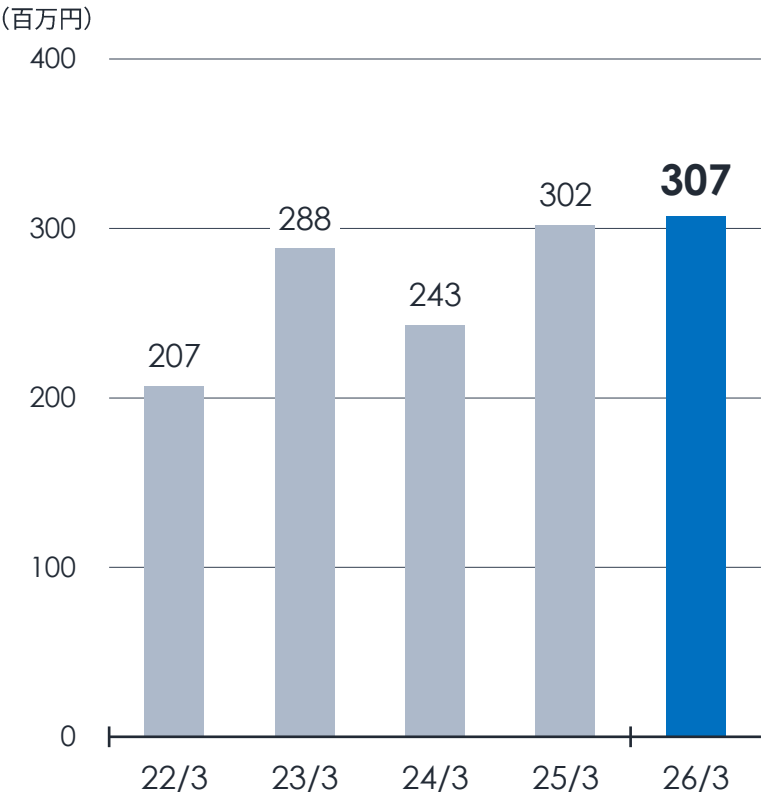
減価償却費

25/3 期	26/3 期	増減額	増減率
630	<b>654</b>	+23	+3.8%



研究開発費

25/3 期	26/3 期	増減額	増減率
302	<b>307</b>	+4	+1.5%



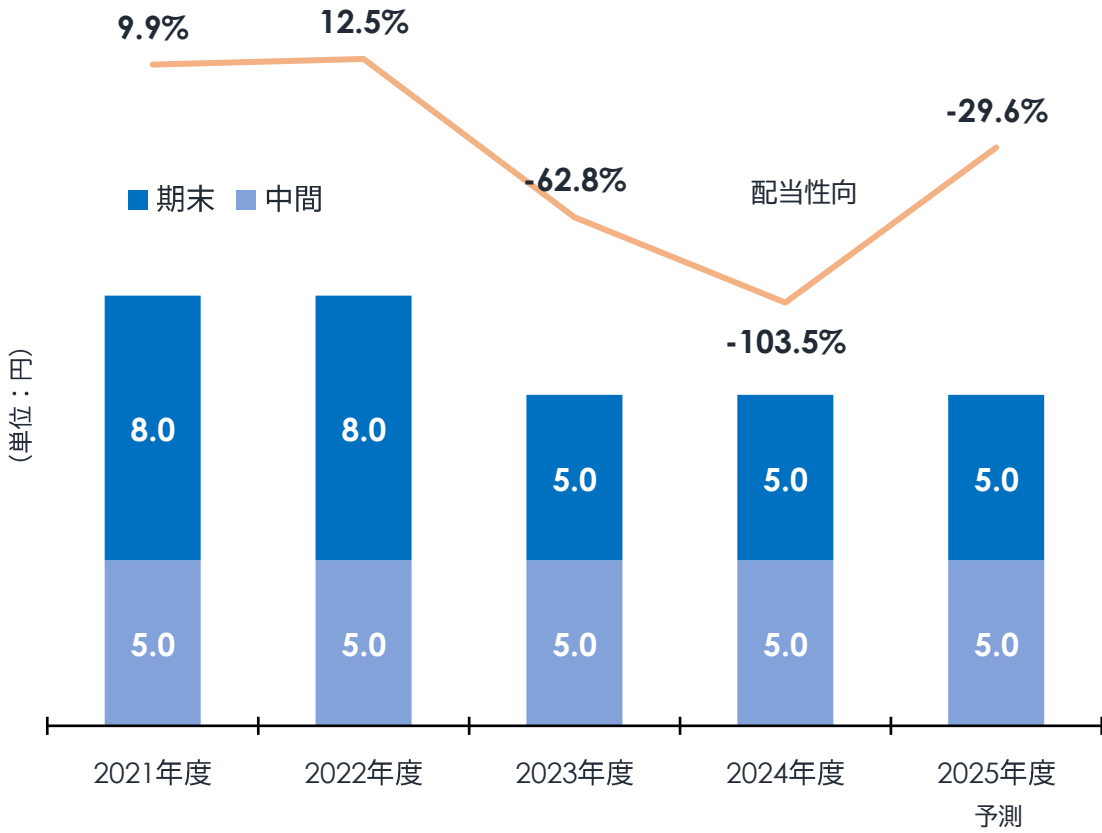
# 配当予測に変更なし

👉 年間10.0円（中間5.0円 / 期末5.0円）

## 株主還元に関する基本方針

株主のみなさまに対する利益還元は経営の最重要項目の一つであり、長期安定的な企業価値向上のため、成長力強化を目的とする研究開発・生産設備投資や健全な財務体制を維持するための内部留保とのバランスを取りつつ、株主への安定的な配当を継続的にを行うことを第一に、連結業績及び配当性向等を総合的に勘案した利益還元を行います。（配当性向は連結当期純利益の20%を目安とします。）

なお、DOE（株主資本配当率）の導入については中期計画R2027における検討課題とさせていただいております。





Agenda






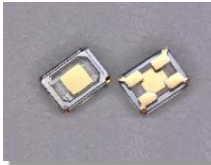
③

## 中期計画 R2027の取り組み状況について

代表取締役社長 萩原 義久

車載向けの取組等、着実に進捗 事業環境の変化に対し、機動的に経営資源を配分

☞ 事業(製品)ポートフォリオの最適化を図り、市場の変化に適応する柔軟なマーケティング戦略を実行し、持続的な成長を目指す。

中期計画 R2027 重点戦略		現況と今後の展開	
I 当社の強みを活かせる成長市場に経営資源を集中する	<div><div><ul style="list-style-type: none"><li>・ モビリティ</li><li>・ 医療ヘルスケア</li><li>・ IoTデバイス</li><li>・ 次世代デジタルインフラ</li></ul></div><div></div></div>	<div><div><ul style="list-style-type: none"><li>☞ スマートフォン向けの成長鈍化は想定していたものの、米国の関税政策が引き金となり、想定以上の外部環境悪化となった</li><li>☞ 車載、医療ヘルスケア、IoTデバイスともに前期実績を上回る</li><li>☞ IATF16949は当期中の認証取得に向け対応中</li><li>☞ 次世代デジタルインフラ向けは来期本格量産に向けて体制構築中</li></ul></div></div>	
	II 独創的発想をもって革新的技術でイノベーションを創出し、新しい価値を創造する	<div><div><ul style="list-style-type: none"><li>・ KoTカット水晶デバイス KCR / KCROシリーズ</li><li>・ ATカット水晶デバイス MDS採用0806サイズ</li></ul></div><div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 音叉型水晶デバイス 車載向け仕様</li></ul></div><div>等</div></div>	<div><div><ul style="list-style-type: none"><li>☞ KoTカット水晶デバイスは、新たに2520サイズ品(KCRO-05)を開発</li><li>☞ MDS採用0806ATカット水晶デバイスは医療ヘルスケア市場をターゲットに開発中</li><li>☞ 車載市場向けにATカット水晶振動子に加え、音叉型水晶振動子をラインナップし、市場の拡大を狙う</li><li>☞ 低消費電力・低電圧駆動・高温域高精度対応など、市場が求める製品の開発</li></ul></div></div>
III 構造改革による収益力とキャッシュ創造力を強化する	事業ポートフォリオの最適化とROICツリーによるKPIマネジメントによる企業価値の最大化		<div><div><ul style="list-style-type: none"><li>☞ 事業環境の変化に対して機動的にポートフォリオを組み替え、経営資源を柔軟に成長性ある事業に振り向け、持続的な成長と企業価値向上を実現する体制を構築</li></ul></div></div>

## 当社の強みを活かせる成長市場に経営資源を集中

高  
↑  
市場の成長率  
↓  
低

急速に変化する経営環境に対し、機動的な  
事業ポートフォリオ戦略で柔軟に対応し、  
企業価値向上を図る

新規事業: 独自技術による差別化・競争優位

### KoTカット水晶デバイス

注力市場  
次世代デジタルインフラ  
  
対応周波数  
100MHzから1GHz



2026年度の投資回収  
フェーズへの移行に  
向け、体制構築中。

### ATカット水晶デバイス

事業環境の変化を注  
視しながら、再成長  
に向け、構造改革を  
実行する。

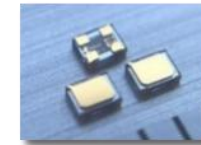
注力市場  
モビリティ / 医療ヘルスケア  
  
対応周波数  
数MHzから300MHz程度



構造改革事業: 市場環境変化による再ポジショニング

### 音叉型水晶デバイス

注力市場  
モビリティ / 医療ヘルスケア  
/ IoTデバイス(LPWA)  
  
対応周波数  
32.768kHz



スマホ向けに代わる  
成長市場を開拓し、  
成長と収益性の両立  
を図る。

コア事業: スマホに代わる市場開拓でシェアを維持・拡大

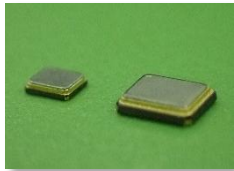
低 ← 自社の強み(収益性) → 高

## ATカット水晶振動子に加え、音叉型水晶振動子の拡販を開始

☞ 当期中にIATF16949を認証取得の見込み。車載仕様向けの音叉型水晶振動子を開発中であり、車載市場の開拓に注力する。

### 注力製品

#### ATカット水晶振動子



ATカット水晶振動子  
**FCX-04S / FCX-06S**  
(3.2mm×2.5mm×0.7mm Max.)  
(2.0mm×1.6mm×0.5mm Max.)

#### 音叉型水晶振動子



小型音叉型水晶振動子  
**TFX-03 / TFX-04**  
(2.0mm×1.2mm×0.6mm Max.)  
(1.6mm×1.0mm×0.5mm Max.)



車載仕様向けを開発中

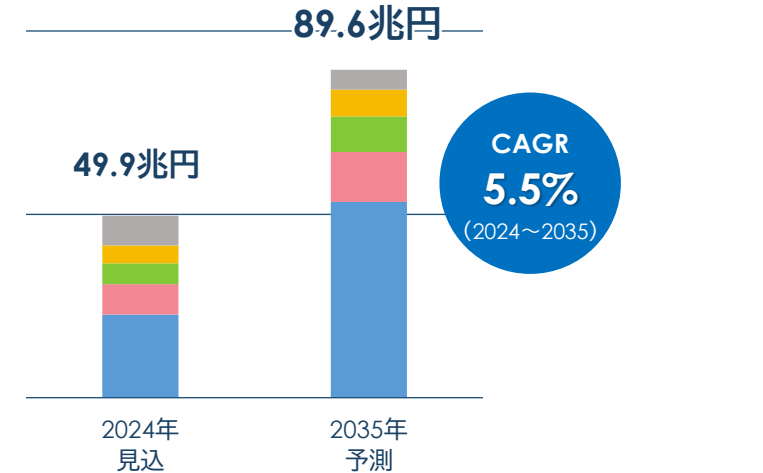
※IATF16949… 自動車産業向けの品質マネジメントシステム規格

### 市場展望等

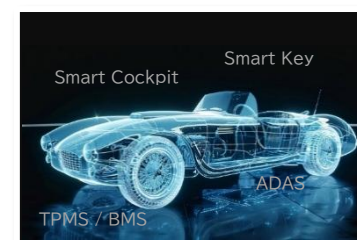
- ☞ 世界の車載電装システム市場規模は、2035年までに89兆6,716億円へ成長（CAGR5.5%）
- ☞ ICEの生産台数減少によりパワートレイン系は減少するものの、xEVの生産台数増加、走行安全系やADASなどが増加すると予想。
- ☞ 省電力動作のためのサブクロックとして、小型化、高信頼性、広い温度範囲に対応した音叉型水晶振動子の搭載員数もスマートコックピットやBMS（バッテリー管理システム）向けなどに増加すると予想。（当社調べ）
- ☞ 新規生産ラインは安定化、更なる生産性の向上に対応中。

#### 車載電装システムの市場規模

■ xEV系 ■ 走行安全系 ■ ボディ系 ■ 情報系 ■ パワートレイン系



（出所：富士キメラ総研「車載電装デバイス&コンポーネンツ総調査 2025 上巻」）

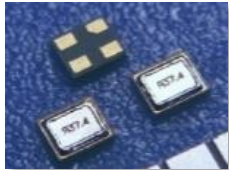


## 顧客エンゲージメントを強化し、市場深耕を推進する

☞ 高齢化の進展や健康志向の高まりなど、有望な成長市場であり、新規開拓とともにエンゲージメント力を強化し、市場深耕を図る

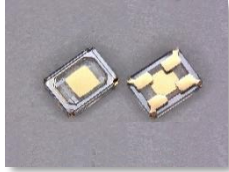
### 注力製品

#### ATカット水晶振動子



超小型  
ATカット水晶振動子  
**FCX-08**  
(1.2mm×1.0mm×0.3mm Max.)

in development



超小型  
ATカット水晶振動子 **MDS**  
**MDS-AT0806** (仮称)  
(0.8mm×0.6mm×0.3mm Max.)

#### 音叉型水晶振動子



超小型  
音叉型水晶振動子 **MDS**  
**TFX-05X**  
(1.2mm×1.0mm×0.35mm Max.)

※MDS… 固相拡散接合によるウェハレベル真空  
パッケージ封止

### 市場展望等

☞ 世界のウェアラブル医療機器市場規模は、2032年  
までに3,247億3千万米ドルへ成長  
(CAGR17.8%)

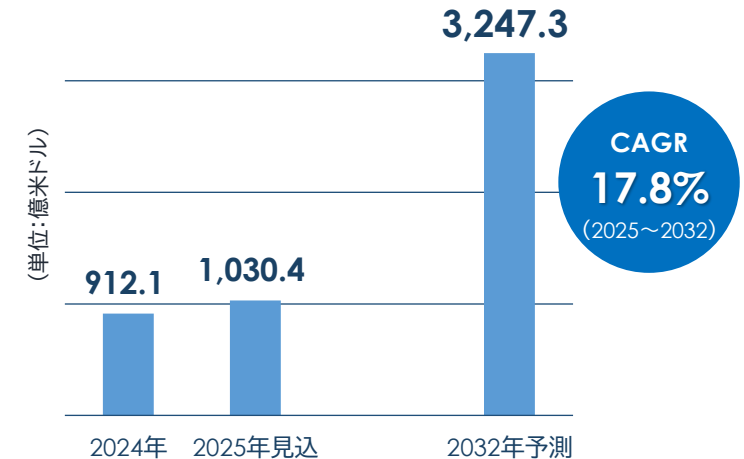
☞ 米国の成人の約40%が医療関連のアプリケーショ  
ンを利用しており、35%がウェアラブル医療機器を  
活用。(2023年mHealth Intelligence調べ)

☞ 難聴や糖尿病など、慢性疾患や生活習慣病の増加  
は、予測期間中の市場成長の主要要因の一つと見  
込まれている。

☞ ウェアラブル機器に求められる小型・軽量化、低消  
費電力化、高精度・高安定性などの要求に対応



#### 世界のウェアラブル医療機器市場規模



出所: Fortune Business Insights  
出所: 「ウェアラブル医療機器市場規模、シェア及び業界分析」



## 高速大容量化する次世代高速通信技術に対応、技術的優位性を活かした戦略を構築する

- 飛躍的な成長を遂げるデータセンター市場において、高速化が進む光トランシーバーのニーズに対応。
- これまでの投資フェーズから2026年度の回収フェーズへの移行を目指す。

### 注力製品

#### KoTカット水晶発振器



KoTカット水晶発振器

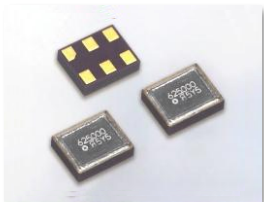
**KCRO-04**

(3.2mm×2.5mm×1.3mm Max.)

出力周波数：100MHz～1GHz

本日プレスリリース

in development



小型

KoTカット水晶発振器

**KCRO-05**

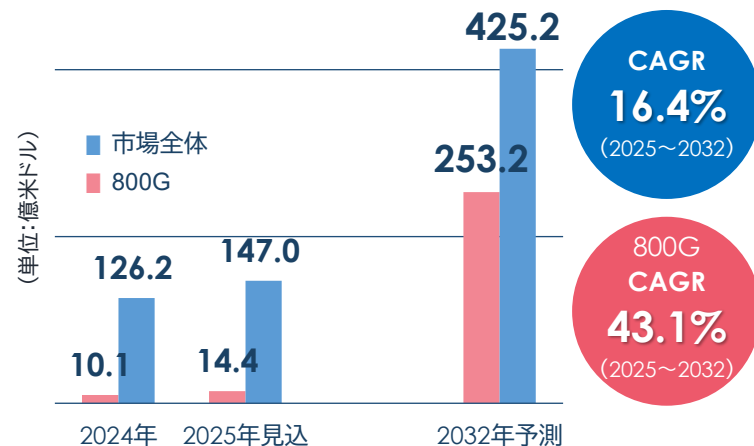
(2.5mm×2.0mm×0.85mm Max.)

出力周波数：625MHz

### 市場展望等

- 世界の光トランシーバー市場規模は、2032年までに425億2千万米ドルへ成長（CAGR16.4%）
- データトラフィックが世界的に増加するなか、データセンターにおける高速、高信頼性の光トランシーバーに対する需要が高まっており、800Gイーサネットの移行が急速に進むとみられている。
- 超高速トランシーバーに使われる高周波タイミングデバイスは、低ジッタ・高安定性・低位相ノイズの要求が非常に強い。
- KCRシリーズはその特性を生かし、航空宇宙、計測機向けにも事業展開を模索する。

#### 光トランシーバーの市場規模



(出所: Fortune Business Insights「光トランシーバー市場2025」)

(出所: WISE GUY REPORTS「グローバル800G光トランシーバー市場調査レポート」)



# AI時代を拓く革新的なコア技術、超低ジッタ水晶発振器「KCRO-05」

🚀 AIサーバー向けに特化 1.6T光通信モジュール（OSFP-XD等）に不可欠な戦略的製品

## AIインフラ構築への貢献



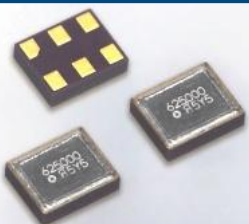
AIサーバー内の光トランシーバー向け。625MHzの低ジッタ発振器には、巨大な需要が顕在化。

## 成長戦略の中核製品

中長期的な成長戦略の中核を担う製品の一つとして業績への寄与が見込まれるため、生産体制を含めた経営資源を優先的に投入。

## 量産出荷体制の構築

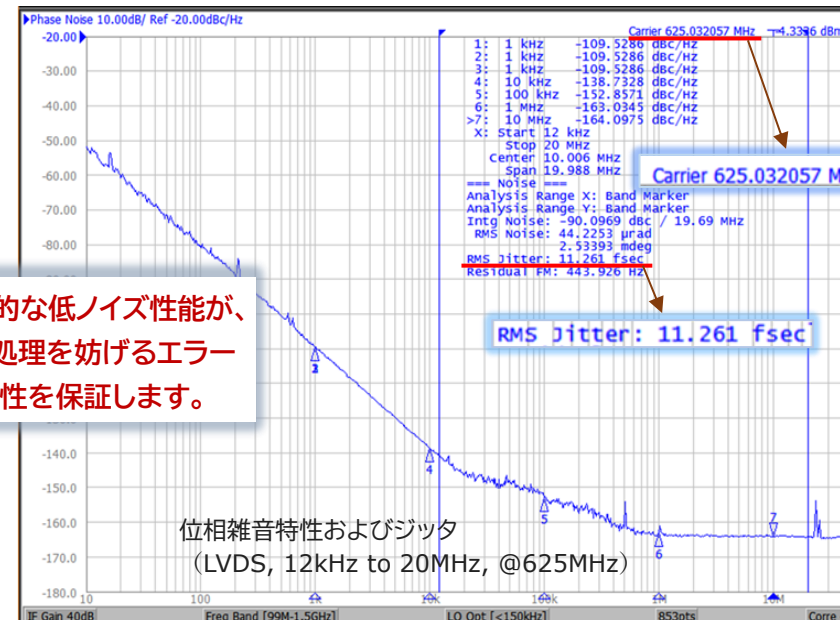
具体的な顧客需要に基づき、来期(2026年)の量産供給に向けた体制整備を構築中。順次生産能力を拡大していく予定。



生成AIの進化はデータセンター内の通信量を爆発的に増加させ、光トランシーバーには800Gbps~1.6Tbpsの超高速通信が求められています。

## KoTカット®・OPAW®

特許登録完了(2025年9月)  
弾性波技術の知的財産権確立



KCRO-05の圧倒的な低ノイズ性能が、AIサーバーの高速処理を妨げるエラーを一掃し、稼働信頼性を保証します。



光トランシーバーとは？

サーバーからの「電気信号」を「レーザー光」に変えて送信し、光ファイバーから来た「光」を「電気信号」に戻してサーバーに渡す重要な役割をします。

625 MHz

次世代通信の業界標準  
顧客の小型化ニーズにも対応  
2.5mm×2.0mm×0.85mm

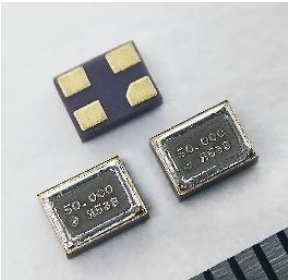
Typ. 12 fs

世界最高水準の超低ジッタ性能  
(12kHz to 20MHz, @625MHz)

業界トップクラスの低電圧駆動 世界最小クラスの水素発振器「FCXO-07F」

2025年5月30日  
プレスリリース

低電圧領域において従来の水素発振器では困難であった0.9Vからの安定した発振精度と低消費電力を両立。



名 称	FCXO-07F
用 途	AIサーバー関連
外 形 寸 法	1.6mm X 1.2mm X 0.6mm Max.
電 源 電 圧	0.9 V ~ 1.5 V ( Typ. 1.2 V )
周波数範囲	24MHz~54MHz



低電圧0.9V駆動を実現

従来の水素発振器では困難であった0.9Vからの安定した発振を可能にし、半導体の低電圧化トレンドに適合。

高度な省電力設計

独自の回路設計により、低電圧領域において優れた発振精度と低消費電力を両立。

小型サイズ

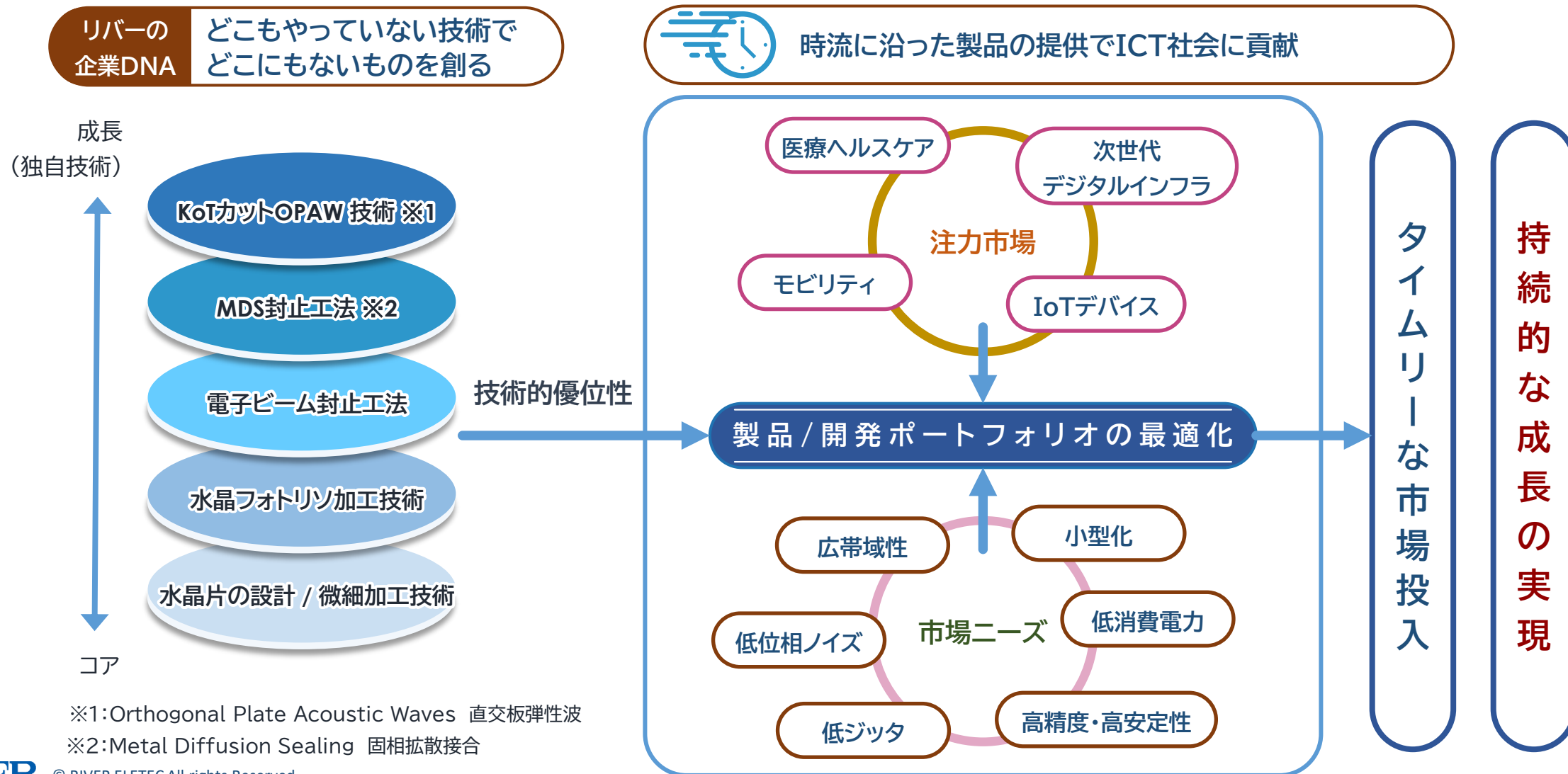
1.6mm×1.2mmの小型パッケージにより、実装面積の限られるモバイル機器やウェアラブルデバイスへの搭載も最適。

最先端モバイルなどバッテリー駆動が中心となる  
電子機器の「小型化」「高性能化」「低消費電力化」の同時実現化に貢献



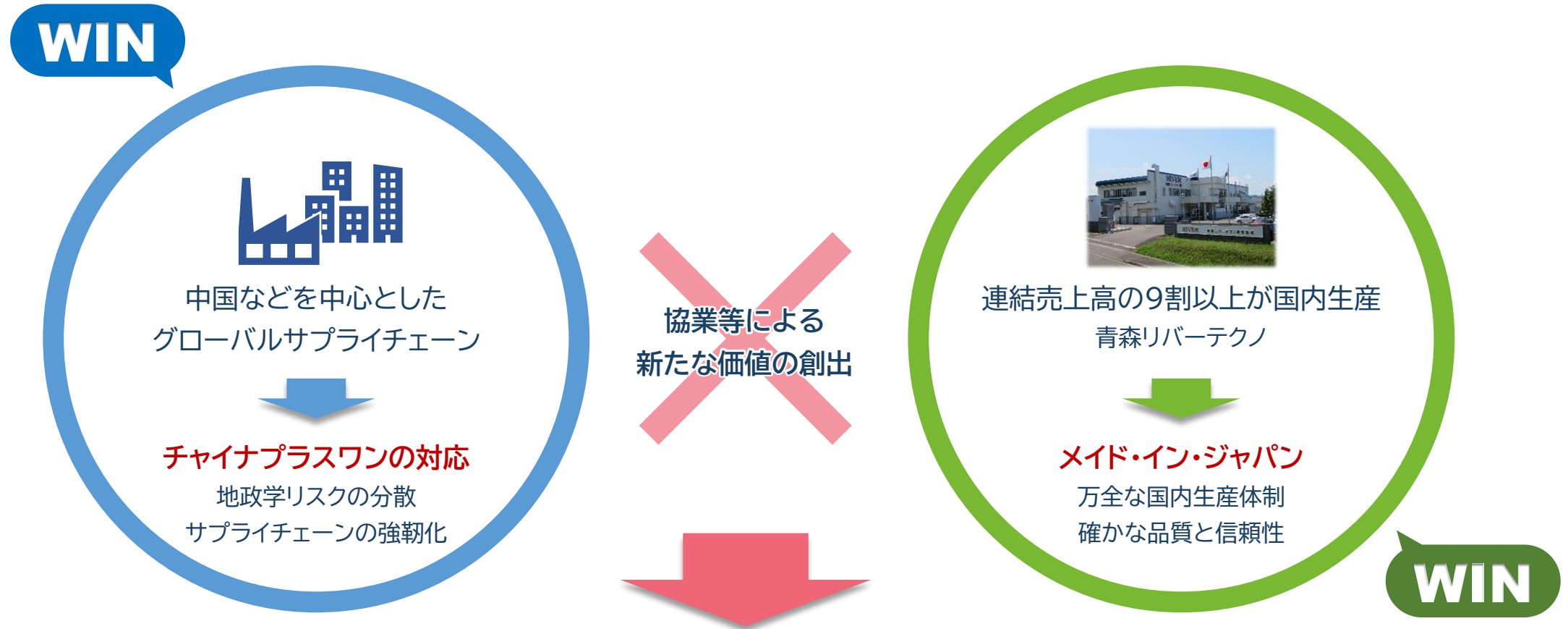
# 革新的技術で創出した新たな価値をタイムリーに市場投入し、持続的成長を実現する

営業部門と密接に連携した開発を推進めると同時に量産体制を構築し、タイムリーな市場投入を図る。



## サプライチェーンの強靱化に向けたグローバルな流れに対応し、新たな価値の創出を図る

国内生産で培った品質と信頼性を十二分に生かす



事業構造の変革により、稼ぐ力の再構築を図る

長期経営ビジョン

革新的技術を用いた最適価値の電子デバイスを世界に発信し、人々の暮らしと生活環境の向上に貢献する

## ATカット / 音叉型の新たな可能性を追求し、KoTカットをニューノーマルに！



### 新たなタイミングデバイスの歴史を創る

- 👉 小型・高信頼性『音叉』ならリバー
- 👉 高性能・超小型『ATカット』ならリバー
- 👉 超高周波数・超低ジッター『KoTカット』ならリバー

## 免責事項

本資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などの記載は、将来の業績に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。実際の業績はこれらと異なる結果となる場合がありますので、これらの業績見通しに過度に依存されないようお願いいたします。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、景気動向、為替変動、当社の事業領域に関連する技術革新や需要変動、当社の開発・生産能力などが含まれます。ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。また、当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証しておりません。